

第 1 回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成 21 年 4 月 25 日(土)

場所：住吉公民館

事務局より、開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、これまでの経緯と当面のスケジュールについて説明を行い、質疑応答を行った。

その後、市民連携コーディネータの進行により、ワークショップ形式によりこれまでの意見の確認を行った後、宮崎海岸市民談義所の進め方についての質疑応答を行った。

○主な質疑の内容

質問：宮崎海岸市民談義所の各回のテーマは、既に決まっているのか。

回答：説明したテーマは事務局が提案したものであり、これだけに限るものではない。皆さんのお話を伺いながら決めていきたい。

質問：「誰かを悪者にするということはない。」という勉強会で用いていたルールが説明されたが、間違った意見は正した方がよい。

回答：個人の中傷はしないという事で、客観的な事実に基づいて間違っている事を指摘することは制限しない。

質疑：次回以降の宮崎海岸市民談義所のテーマに「意見の調整」という記載があったが、意見を述べる前に、「意見の調整」という記載をされるのはおかしいのではないか。

回答：これまでに開催した海岸勉強会や宮崎海岸懇談会等で既に多くの意見を頂いており、その事を踏まえて「意見の調整」と記載した。新たな意見があれば、これからもお伺いしていきたい。

質疑：侵食の原因を解明する事が重要。個人的には、もっと特定できると思っている。

回答：侵食のメカニズムは非常に複雑である。ダムや港の建設も何らかの影響を与えていると思うが、何がどの程度の影響を与えているのかを解明することは、現在のところ困難である。今後も調査を続けていきたい。

質疑：地元の間人は農業や漁業で生活しており、宮崎海岸の問題は死活問題。もっと地元の意見を重要視すべき。

回答：地元の人々の意見は非常に重要だと思っている。ただし、地元以外の人々の意見も聞きながら進めていきたい。

質疑：工法の提案はどこでしたら良いのか？

回答：宮崎海岸市民談義所でやって頂いて構わない。

質疑：「試験施工」という言葉からは砂浜を何かで固めるという提案に聞こえたが、砂浜や砂丘を固めるべきではない等の基本的なことを議論していくべきではないか？

回答：「試験施工」という言葉を使っているが、必ずしもコンクリート等の構造物の設置をする事を前提にしたものではない。「試験施工」の内容についてはこれからみんなで話し合っていきたい。

質疑：市民連携コーディネータには、現場のことを良く考えて意見調整して欲しい。

回答：宮崎海岸市民談義所で行いたいのは、市民が納得できる方向性を見出すこと。市民の意見がバラバラのままであると、国も市民の意見を汲み取るのが難しくなり、結果として市民の不満が大きくなる。参加者との意見交換を通じて、ある程度、みんなが納得できる形にまとめていくことが大切と考えている。

質疑：港や道路の撤去など現実的に難しいと考えられる意見も出てくると思うが、国土交通省としてはどこまで対応出来るのか。

回答：我々には、予算や、法律、技術力など様々な制約がある他、役所以外の方も含めた多くの関係者との調整も必要となる事もある。どこまで対応出来るかはケース・バイ・ケースであり、ここで全てをお答えすることは難しい。

質疑：参加者が宮崎海岸市民談義所でそのような提案をすることについての制約はないということで良いのか。

回答：参加者がそのような提案をすることについての制約は無い。

質疑：説明された「宮崎海岸トライアングル」に「海岸よろず相談所」の記載があるが、これまでに「海岸よろず相談所」に提出した意見はどう取り扱われるのか？

回答：これまでに提出された意見は引き継がれている。

質疑：鳥取では侵食が止まったとの新聞記事があった。他の地域の事例についても参考とした方が良い。

回答：他の地域の事例についても参考にしていきたい。

質疑：宮崎海岸市民談義所のテーマは「試験施工の方向性の提案」となっていて、宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会では「試験施工案の提示」となっている。宮崎海岸市民談義所からの提案に対する宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会からのフィードバックはどうなるのか？

回答：宮崎海岸市民談義所の提案に対して、宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会では、専門的な立場から技術的な検証等を行っていくことになる。適宜、宮崎海岸市民談義所にもフィードバックしていきたい。

質疑：来月から海岸にアカウミガメがくると思われる。小丸川の礫を養浜した箇所は地盤が固くなっており、7 cm程度しか地中に棒が入らない。三財川の土砂を養浜した箇所は40cm程度地中に棒が入る。良く調査して頂きたい。

回答：調査する。

質疑：宮崎海岸市民談義所の参加者を増やしていく方法として何か考えているか。

回答：予算的に厳しいものもあるが、人が汗をかいてできることはしていきたい。

以上